

# 平成 2 1 年度病害虫発生予察注意報第 1 号

平成 2 1 年 6 月 1 5 日  
鳥取県病害虫防除所

## 注意報の概要

6 月に入ってから平年に比べて低い気温が続いており、現地白ネギほ場においてべと病の発生が急増している。今後も本病の発生に好適な気象条件が予想されるため、早急な防除が必要である。

## 病害虫名：ネギべと病

- 1 対象作物 ネギ
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生量 多い
- 4 注意報発令の根拠

- ( 1 ) 本年の現地白ネギほ場におけるべと病の発生時期は平年に比べてやや早く、発生量はやや多く推移していたが、6 月に入ってから発生量が急増した。
- ( 2 ) 6 月 1 5 日現在の発病株率は、県中部で 1 7 . 6 %、県西部で 3 4 . 2 % と多い ( 表 1 )。
- ( 3 ) 鳥取地方気象台発表の農業気象速報によると、6 月上旬の平均気温は県中西部で低かった。
- ( 4 ) 本病は、1 5 ~ 2 0 のやや低温で降雨が続くと発生が多くなる。向こう 1 か月の気象予報によると、今後も本病の発生に好適な気象条件が予想されており、早急な防除が必要である。

## 5 防除上注意すべき事項

発病の認められるほ場では、直ちにリドミル M Z 水和剤 1 , 0 0 0 倍液、フォリオブラボ顆粒水和剤 1 , 0 0 0 倍液、フェスティバル C 水和剤 1 , 0 0 0 倍液などを散布する ( 表 2 )。

表 1 白ネギほ場におけるべと病の発生状況

調査地点	調査ほ場数	5 月 2 7 日調査		6 月 1 5 日調査	
		発生ほ場数	発病株率 (%)	発生ほ場数	発病株率 (%)
県中部	10	-	-	10	17.6
県西部	10	3	2.4 (1.2)	10	34.2

発病株率の ( ) 内は H11 ~ 20 年の平年値

表 2 防除薬剤の使用基準

農薬の名称	農薬の種類	希釈倍数	使用時期	使用回数
リドミル M Z 水和剤	マンゼブ・メタラキシル水和剤	1,000 倍	収穫 30 日前まで	3 回
フォリオブラボ顆粒水和剤	メタラキシル・T P N 水和剤	1,000 倍	収穫 14 日前まで	2 回
フェスティバル C 水和剤	ジメトモルフ・銅水和剤	1,000 倍	収穫 14 日前まで	3 回

マンゼブを含む農薬の総使用回数：3 回

メタラキシルを含む農薬の総使用回数：4 回 ( 種子粉衣は 1 回、は種後は 3 回 )

T P N を含む農薬の総使用回数：3 回 ( 土壌灌注は 1 回、散布は 2 回 )